

(2) 学年別研究委員会

① 目的

低学年部会（小1・2年）、中学年部会（小3・4年）、高学年部会（小5・6年）、中学校部会（中1～3年）の4つの部会を設け、全部員が道徳の授業を実践する。実践結果を報告し合い、分析をすることで、教師の力量向上を図る。

② 研究の内容

1. 教科書を研究する力を鍛えられる学年別研究会の実施
2. 他者との豊かなかわり（ペア学習やチーム学習、ICT機器の活用など）を取り入れた授業展開の研究
3. 道徳科の本質にせまる発問や問い返しなど深い学びにつながる授業展開の研究

③ 部会の構成及び担当者

小学校低学年部会→道徳主任（特別支援）、世話係（鈴木・深津）、指導員、部長
小学校中学年部会→道徳主任（特別支援）、世話係（大橋・高辻）、指導員、部長
小学校高学年部会→道徳主任（特別支援）、教務、世話係（稲垣・星山）、指導員、部長
中学校部会 →道徳主任、世話係（竹中・川野）、指導員、部長

④ 部会別研究授業について

ア 各部会で取り上げる資料

光村図書「きみがいちばんひかるとき」

イ 研究授業の持ち方

研究を進める際には、部会で決定した本時のねらいに迫るために、どのような手立て（発問構成、対話の形態、ICT機器の活用など）を図って実践したのかを報告内容に明示したい。各部員の報告内容または代表授業者の教研レポートから今後の課題を見つけたり、効果があった指導法を蓄積したりすることで、研究を深めたい。

⑤ 研究の方法と計画

- 4月11日 **第1回主任会** 本年度の研究の方向性、学年別研究についての説明
4月18日 代表授業者の決定 ※今年度の代表授業者の先生は以下の通りです。

今年度の学年別代表授業者

小学校低学年部会	近藤貴施	先生（根石小）
小学校中学年部会	矢田和成	先生（三島小）
小学校高学年部会	北原詩織	先生（大樹寺小）
中学校部会	平石汐里	先生（葵中）

4月19日～5月7日 教材の決定

代表授業者が授業で扱う教材を決定し、「ねらい」「学習課題」「中心発問」を起案する。
～5月7日 各学年部会での電子会議室を立ち上げ

各学年部会の部員に起案内容を電子会議室上で送付する。各部員は送られた起案内容を検討する。

5月14日 **第2回主任会** 学年部会ごとによる指導案検討

学年部会で意見を出し合い、「学習課題」「中心発問」を決定する。

5月15日～6月7日 授業実践

代表授業者以外の部員は各校で授業を実践、または同じ学校の先生に実践をしてもらう。実践して気付いたこと（成果、課題など）を電子会議室上で報告する。

1学期中 **代表授業者による授業実践**

夏休み前半 代表授業者は岡崎市教育研究大会のレポートを作成する。

⑥ 他者との豊かなかかわり（ペア学習やチーム学習、ICT機器の活用など）を取り入れた授業展開の研究や道徳科の本質にせまる発問や問い返しなど深い学びにつながる授業展開の研究の方法

- ・ペアトーク（座席の隣りの人と2人だけによる対話）を取り入れる。
- ・4人程度のグループによる話し合い（チーム学習）を取り入れる。
- ・役割演技を取り入れる。
- ・道徳的価値理解、他者理解、人間理解の観点と児童・生徒の発達段階をふまえて、本時のねらいや中心発問を決定する。
- ・中心発問だけでなく、補助発問や意図的な指名を有効に活用にすることによって、深い学びにせまる授業展開の工夫
- ・付箋紙を使ったブレインストーミングや思考ツールを活用することで生徒の意見を「見える化」する。
- ・ホワイトボードを活用し、グループの意見をまとめたり、黒板に貼ったりする。
- ・座席（コの字、4人など）の配置を工夫して話し合いを効率的に行う。
- ・タブレットなどのICT機器を活用する。

※学校、学級の実情に応じて、最適な方法を取り入れる。

